2026年度　自己推薦入試【基礎学力型】

国　語

〈全学部全学科共通問題〉

12月13日実施　D日程

注　意　事　項

1．試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2．本冊子には、15ページの問題文があります。
3．解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4．監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字６桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5．解答科目欄には、解答する科目を１つ選び、マークしてください。
6．解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、［ 20 ］と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

（例）

解答番号	解　答　欄
20	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

7．解答番号は［ 1 ］～［ 25 ］です。［ 26 ］～［ 50 ］の解答欄には何も記入しないでください。
8．マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでていねいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9．解答時間は、60分です。

問題Ⅰ　次の（一）（二）の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、＊の付いた語句には、文末に注があります。

（一）

「教育にもビジネスマインドは必要だろう」とおっしゃる方も多いと思います。かく言う私も「教育にはビジネスマインドが必要である」と教授会ではずいぶん言い立てて、「象牙の塔」を愛する同僚たちの憤激を買ったものです。

［　A　］、大学だってお金がなければ回りません。きちんと入学者を確保しておかないと、自分たちがしたい教育ができません。だから、あまり浮世離れしたことばかり言っているわけにはゆかない。

でも、「私たちがやりたい教育をするためには、財務内容をどうやって健全化すべきか」と考えるのと、「収支を黒字にするためには、どういう教育をすればいいか」と考えるのは、似ているようですけれど、方向が違います。

学校は営利企業ではありません。利益を上げるために出資者を募って始めたわけではない。それよりは、もともと「利益が上がらない」ものだと思った方がいい。「いろいろな人からのご支援」を得て、かろうじて成り立つものだと考える方がいい。

ですから、大学と財務ということを考える場合には、「どうやって利益を上げるか」ではなく、「どうやって多くのご支援を集めるか」というふうに問題は立てられるだろうと私は考えています。

この場合の「ご支援」というのは「出資」とは違います。確実な「配当」をめざしての「ご支援」なんか大学は集められません。申し訳ないですけれど、これは先方の「持ち出し」になります。でも、それは出したものとは違ったかたちでいつか戻されるはずです。

【　Ⅰ　】学校というのは「差し出したもの」が、それとは違ったかたちのものとして、いつか戻ってくる。そういう制度です。このあたりの呼吸がビジネスマインド一点張りの方にはなかなかご理解いただけません。

＊1 今回の教育再生会議のメンバーの発言を聞いていると、教育をビジネスマイン

ドで捉えようとしている方の言うことがたいへんクリアーカットで、説得力があるように見えます。教育にも市場原理、競争原理を導入せよ。経営努力を怠る学校は市場の淘汰圧にさらされて退場すべきである。それがフェアネスだ、と。

それだけ聞くとたいへんロジカルに聞こえるのですが、この方たちは教育とビジネスでは扱っている「時間」が違うということを忘れています。

【 Ⅱ 】ビジネスは無時間モデルですが、教育はそうではありません。まず、それについてご説明しましょう。

ビジネスというのは、入力と出力の間の時間差がゼロであることを理想とします。これはわかりますね。例えば、ある商品を開発する。企画が出されてから、製品化されて、市場に投じられるまでのタイムラグはできるだけ短い方が望ましい。当然ですね。マーケットがそれに反応する。すぐれた商品であれば、売り上げが伸びる。［　　B　　］。

ビジネスの常識その一は「マーケットは間違えない」ということです。経営の成否はマーケットによって直ちに検証される。マーケットが拒絶した商品やビジネスモデルは、本人がどれほど「これは素晴らしいものだ」と言い張っても、誰も相手にしない。これがビジネスの基本ルールです。だから、ビジネスはおもしろい。それは、やったことにすぐに判定が下るからです。

正しいことをしたから成功するのではない。成功したものが正しい。だから、ビジネスにおいて、行動からその成否の判定までの時間はできるだけ短いことが求められます。なにしろ「Time is money」なんですから！「時は金なり」というのは、時間は貨幣に置換可能であるということです。つまり、「時間がかかる」というのは端的にそれだけ「金がかかる」ということです。ある新製品をつくった。マーケットがすぐに反応しない。そういうときに、「いつか」売れ始めるのではないかとじっと待っているということは許されません。売れない商品の生産ラインを残し、労働者たちに給料を払い、在庫を増やしてゆくというのは、「損失」以外のなにものでもありませんから。「時は金なり」というのは「マーケットではすべてのやりとりが時間差ゼロのうちになされることを理想とする」とい

うことです。だから、東京の証券取引所と、シティの取引所では、ネットでの株の売り買いのときのキーボードを押してから取引が成立するまでの時間差がコンマ何秒かシティの方が早かったので、トレーダーがシティに流れた、というようなことも起こりえるわけです。

【 Ⅲ 】ビジネスでは、キーボードを押してからディスプレイに文字が出るまでの時間差がゼロであるのを理想とします。キーを押してから文字が表示されるまでに一秒のタイムラグがあるパソコンはおそらく私たちにとって耐え難くストレスフルでしょうし、ましてやキーを押してから一分経ってからようやく文字が表示されるような機器で文字を書くことは私たちには不可能でしょう。

けれども、私[*2]がさきに「教育は惰性の強い制度である」ということを言ったのは、教育は「キーを押してから文字が表示されるまで長い時間がかかる」ようなシステムだということです。

【 Ⅳ 】正直に言うと、教育というのは「差し出したものとは別のかたちのものが、別の時間に、別のところでもどってくる」システムなのです。喩(たと)えて言えば、キーボードを押すと、ディスプレイに文字が出る代わりに、三日後に友だちから絵葉書が届いたとか、三年後に唐茄子(とうなす)を二個もらったとか、そういうどこをどう迂回(うかい)したのかよくわからないような「やりとり」が果たされるのが教育というものの本義なのです。

ビジネスマンはそのようなシステムが存在すること自体が信じられませんし、許せません。それはビジネスマンの生理と論理に反するからです。その判断は当然だと思います。けれども、申し訳ないけれど、教育というのは「そういうもの」なのです。

（内田樹『街場の教育論』）

〔注〕 ＊1 今回の教育再生会議…第一次安倍内閣が教育再生への取組みを強化するため、二〇〇六年一〇月一〇日の閣議決定により設置した機関。この記事は二〇〇七年四月におこなわれた講演をもとに書かれた。

＊2 私がさきに「教育は惰性の強い制度である」ということを言った…この文章の一つ前の章で述べたこと。

問一　空欄［　A　］に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

［1］　①　そこで　　②　ちなみに　　③　ましてや　　④　たしかに

問二　傍線部アの意味として最も近いものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

［2］　①　大人げない　　②　非現実的な　　③　高慢な　　④　破格な

問三　空欄［　B　］に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

［3］　①　人気が出なければ市場から撤退する
②　でも、流行(はや)りが終われば、売れなくなる
③　もちろん、市場の反応を見極めるには時間がかかる
④　すぐれた商品でなくとも人気が出るのを待てばいい

問四　次の一文が入る最も適切な場所を、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

［　それどころではありません。　］

［4］　①【　Ⅰ　】　②【　Ⅱ　】　③【　Ⅲ　】　④【　Ⅳ　】

問五　本文の内容に一致するものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

［5］　①　やったことにすぐ判定が下るのがビジネスだが、教育にもそうした反応の速さを期待する必要がある。
②　教育の成果は、思ってもみなかった時や場所で、投げかけたものとは別のかたちで返されるものである。
③　教育は結果が出るまで時間のかかるものであり、しかもいつも成果

が出るとは限らないリスクを伴うものである。

④　大学の財務体質を改善するため、どんな教育をすればいいか、という視点も重要である。

（二）

今度、兵庫県の国語の先生たちの集まりで講演をするのですが、その打ち合わせに来た先生たちに伺うと、現場の話題はやはり学習指導要領の改訂で登場した「論理国語」のようです。いったい何なの、とみなさん疑問に思っていらした。本当にわからないらしい。

そのときに「論理国語」に準拠した模試の問題の現物を見せてもらいました。驚きました。生徒会の議事録と生徒会の規約を見せて、年度内に生徒総会を開催することは可能かどうかを問うものだったんです……。

契約書や例規集を読める程度の実践的な国語力を「論理国語」という枠で育成するらしい。でも、模試問題を見る限り、これはある種の国語力を育てるというより、端的に文学を排除するのが主目的で作問されたものだと思いました。

「論理国語」を「文学国語」と切り離して教えることが可能だと考えた人たちは、文学とは非論理的なもので、何か審美的な、知的装飾品のように思っているんじゃないですか。［　A　］、そんなもののために貴重な教育資源を割く必要はないと思っている。現にそう公言する人は政治家とビジネスマンには多くいますから。自分たちは子どもの頃から文学に何も関心がなかったけれど、そんなことは出世する上では何も問題がなかった。まったく文学と無縁のままにこのように社会的成功を収めた。だから、文学は学校教育には不要である、と。たぶんそういうふうに自分の「文学抜きの成功体験」に基づいて推論しているんだと思います。政治にもビジネスにも何の役にも立たないものに教育資源を費やすのは、金をドブに捨てているようなものだ、と。そういう知性に対して虚無的な考え方をする人たちが教育政策を起案している。これは現代の反知性主義の深刻な病態だと思います。

「論理国語」という発想に対して僕が懐疑的なのは、試験問題を作る場合、「正解」がわかっていて、受験生は論理的にそれをたどってゆくと「すらすらと」結論に達するというプロセスが自明の前提とされていることです。たぶん、彼らの考える「論理」というのは、そういうものなんでしょう。でも、論理的にものを考えるということを実際にした経験のある人ならわかると思うけれど、論理的に思考するというのは、平坦な道を歩くようなプロセスじゃない。むしろ、ある種の「深淵」(ア)に直面して、それを跳び越えるという「命がけ」のプロセスなんです。

僕は子どもの頃にエドガー・アラン・ポウやアーサー・コナン・ドイルを読んで「論理的にものを考える」ということがどういうことかを学びました。「論理的にものを考える」というのはオーギュスト・デュパンやシャーロック・ホームズ「のように考える」ということだと最初に刷り込まれた。それは今でも変わりません。

名探偵の推理こそ「論理的にものを考える」プロセスの模範だと思いますけれど、ここには「正解」を知っていて「作問」している人はいません。登場人物が現場[a]に残された断片から推理して、その帰結として正解を「発見」するんです。名探偵の行う推理というのは、ひとつひとつの間に関連性が見出しがたい断片的事実を並べて、それらの断片[b]のすべてを説明できる一つの仮説を構築することです。その仮説がどれほど非常識であっても、信じがたい話であっても、「すべてを説明できる仮説はこれしかない」と確信すると名探偵は「これが真実だ」と断言する。【　I　】

それは実際に学術的な知性がやっていることと同じです。

カール・マルクスや、マックス・ウェーバーや、ジークムント・フロイトはいずれもすばらしい知的達成をなしとげて人類の知的進歩に貢献したわけですけれど、彼らに共通するのは常人では真似のできないような「論理の飛躍」をしたことです。目の前に散乱している断片的な事実をすべて整合的に説明できる仮説は「これしかない」という推理に基づいて前代未聞のアイディアを提示してみせた。「階級闘争」も「資本主義の精神」も「反復強迫」もいずれも「論理の飛躍」の

産物です。同じ断片を見せられて、誰もが同じ仮説にたどりつく訳じゃない。凡庸な知性においては、常識や思い込みが論理の飛躍を妨害するからです。【 Ⅱ 】

例外的知者の例外的である所以(ゆえん)はその跳躍力なんです。彼らの論理的思考(c)というのは、いわばこの跳躍のための助走なんです。こうであるならこうなる、こうであるならこうなる……と論理的に思考することによって、思考の速度を上げているんです。そして、ある速度に達したところで、飛行機が離陸するように、地面を離れて跳躍する。そうやって、ただこつこつと理屈をこねている限りは絶対に到達できないような高みに飛び上がることができる。【 Ⅲ 】

「論理的にものを考える」というのはこの驚嘆すべきジャンプにおける「助走」に相当するものだと僕は思います。そこで加速して、踏切線で「常識の限界(d)」を飛び越えて、日常的論理ではたどりつけないところに達する。

でも、凡庸な知性は、論理的に突き詰めて達した予想外の帰結を前にして立ちすくん(イ)でしまう。論理的にはそう結論する他ないのに、「そんなことあり得ない」と目をつぶって踏切線の前で立ち止まってしまう。それこそが「非論理的」ということなんです。【 Ⅳ 】

フロイトの『快感原則の彼岸』は20世紀で最も読まれたテクストの一つですけれど、フロイトはここで症例研究から、そのすべてを説明できる仮説として「反復強迫」さらには「死への衝動」という驚嘆すべきアイディアを取り出します。これは「跳躍」です。フロイト自身は「思弁」と呼んでいます。これは論理的にものを考えるということの本質的な力動性について書かれた重要な言葉だと思います。フロイトはこう述べています。

「次に述べることは思弁である。誰もが、それぞれの見地から価値をみとめたり、あるいは軽視したりするかもしれない行き過ぎた思弁にもなる可能性がある。つまりそれは、ある理念がどんな結論をみちびき出すかという好奇心から、その理念を首尾一貫して利用しつくそうとする試みである。」（「快感原則の彼岸」、『フロイト著作集6』、井村恒郎他訳、人文書院、１９７０年、１６３頁）

論理的にものを考えるというのは「ある理念がどんな結論をみちびき出すか」については、それがたとえ良識や生活実感と乖離するものであっても、最後まで

追い続けて、「この前提からはこう結論せざるを得ない」という命題に身体を張ることです。

ですから、意外に思われるかも知れませんけれど、人間が論理的に思考するために必要なのは実は「勇気」なのです。

学校教育で子どもたちの論理性を鍛えるということをもし本当にしたいなら論理は跳躍するということを教えるべきだと思います。僕たちが「知性」と呼んでいるのは、知識とか情報とか技能とかいう定量的なものじゃない。むしろ、疾走感とかグルーヴ感とか跳躍力とか、そういう力動的なものなんです。

子どもたちが中等教育で学ぶべきことは、極論すれば、たった一つでいいと思います。それは「人間が知性的であるということはすごく楽しい」ということです。知性的であるということは「飛ぶ」ことなんですから。子どもたちだって、本当は大好きなはずなんです。

今回の「論理国語」がくだらない教科であるのは、そこで知的な高揚や疾走感を味わうことがまったく求められていないことです。そして、何より子どもたちに「勇気を持て」という、論理的に思考するために最も大切なメッセージを伝える気がかけらほどもないことです。

そもそも過去四半世紀の間に文科省が掲げた教育政策の文言の中に「勇気」という言葉があったでしょうか。僕は読んだ記憶がない。おそらく文科省で出世するためには「勇気」を持つことが無用だからでしょう。

官僚というのは「恐怖心を持つこと」「怯えること」「上の顔色を窺うこと」に熟達した人たちが出世する仕組みです。だから、彼らにとっては「勇気を持たなかったこと」が成功体験として記憶されている。教育政策が子どもたちに「恐怖心を植え付ける」ことにたいへん熱心ではあるけれど、「勇気を持たせること」にはまったく関心がないのは、官僚たち自身の実体験がそう思わせているのです。怯える人間が成功するというのは彼ら自身の偽らざる実感なんだと思います。だから、彼らはたぶん善意なんです。善意から子どもたちに「怯えなさい」と教えている。「怯えていると『いいこと』があるよ。私にはあった」と心の底

から信じているから。

でも、言うまでもありませんが、知性の発達にとっては、恐怖心を持つことよりも勇気を持つことの方が圧倒的に重要です。

「勇気」は知性と無縁だと思う人がいるかも知れませんけれど、それは違います。スティーヴ・ジョブスはスタンフォード大学の卒業式で、とても感動的なスピーチをしました。今でもYouTubeで見ることができますから、ぜひご覧になってください。その中でジョブスはこう言っています。

Most important, have the courage to follow your heart and intuition. They somehow already know what you truly want to become. 「最も重要なのはあなたの心と直感に従う勇気を持つことである。あなたの心と直感はなぜかあなたが本当に何になりたいのかをすでに知っているからである。」

本当に大切なのは「心と直感」ではありません。「心と直感に従う勇気」なんです。なぜなら、ほとんどの人は自分の心と直感が「この方向に進め」と示唆しても、恐怖心で立ち止まってしまうからです。それを乗り越えるためには「勇気」が要る。

論理的に思考するとは、論理が要求する驚嘆すべき結論に向けて怯えずに跳躍することです。

「論理が要求する結論」のことを英語では corollary と言います。日本語ではこれを一語で表す対応語がありません。僕はこの語を日本の思想家では丸山眞男の使用例しか読んだ記憶がありません。でも、これはとても重要な言葉だと思います。それがどれほど良識を逆撫(さかな)でするものであっても、周囲の人の眉をひそめさせるものであっても、「これはコロラリーである」と言い切る勇気を持つこと、それが論理的に思考するということの本質だと僕は思います。

（内田樹『サル化する世界』）

問一　空欄 A に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。　6

① しかし　② なぜなら　③ たしかに　④ だから

問二　傍線部ア「深淵」の内容を表すものとして最も適切な本文中の表現を、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

7

① 現場に残された断片（波線部ａ）
② 断片のすべてを説明できる一つの仮説（波線部ｂ）
③ 論理的思考（波線部ｃ）
④ 常識の限界（波線部ｄ）

問三　次の一文が入る最も適切な場所を、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

それは「論理」というよりむしろ「論理の飛躍」なんです。

8

① 【 Ⅰ 】　② 【 Ⅱ 】　③ 【 Ⅲ 】　④ 【 Ⅳ 】

問四　傍線部イ「立ちすくんでしまう」の理由としてあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

9

① 凡庸な知性は常識や思い込みにとらわれてしまっているから。
② 凡庸な知性は恐怖に怯え、自分の心と直感に従えなくなっているから。
③ 凡庸な知性は良識や生活実感をもたない非常識な考えの持ち主だから。
④ 凡庸な知性は非論理的なものをコロラリーと言い切るような勇気がないから。

問五　本文の内容に一致するものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

10

① 「論理国語」は、論理的思考力を身に着けるためだけでなく、文学を非論理的で役に立たないものとして退けようとして発想されたものだろう。
② もし、子どもたちに論理的な思考をさせるなら、知識や情報を詰め込むのではなく、知的な高揚感や疾走感を体験させるべきである。

③ 論理的な思考力とは、一見非常識で、非論理的に見えるものでも、それを説明できる唯一の仮説を表現する力のことである。

④ 難解な問題を見事解決に導く、驚嘆すべき論理に到達する非凡な人は、現代においてはもはや必要とされていないということだろう。

問題Ⅱ　次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一　次の身体の一部を表す語を用いた慣用句の中で、空欄に入る語が異なるものはどれですか。

11
① 大事な頼み事ゆえ□に銘じる。
② 突然の出来事に□をつぶす。
③ 危機一髪の出来事に□を冷やす。
④ なるようにしかならないと□をくくる。

問二　次の文中の四字熟語の空欄に入る語として、最も適切なものはどれですか。

救出作業が無事に成功し、□顔一笑する。

12
① 刃　② 覇　③ 破　④ 派

問三　次の【　】内のようなときに用いる最も適切な敬語表現はどれですか。

【旅行会社のポスター】
「四月から、チケットが［　　］なりました。」

13
① お求めやすく
② お求めになりやすく
③ お求めいただきやすく
④ お求めしやすく

問四　次の傍線部の意味として、正しいものはどれですか。

あの人はいつも目の上のたんこぶだった。

14
① 切磋琢磨するライバル
② 自分より目上の邪魔な人
③ 四六時中気になる人
④ 打ち解けられない苦手な人

問五　次のうち、対義語の組み合わせでないものはどれですか。　15

①　抑制―促進　②　遺失―拾得
③　穏当―妥当　④　拒絶―承諾

問六　次の作品名と成立の時代の組み合わせのうち、正しくないものはどれですか。　16

①　雨月物語―平安時代　②　今昔物語集―平安時代
③　風姿花伝―室町時代　④　小倉百人一首―鎌倉時代

問七　次の作品のうち、夏目漱石の作品でないものはどれですか。　17

①　普請中　②　夢十夜　③　こころ　④　彼岸過迄

問題Ⅲ　次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一　次のA～Dの各群の①～④のうち、傍線部の漢字の読みが適切でないものはどれですか。

18
A
① 日本の疾病（しっぺい）対策は十分ではない。
② 知事の職権を濫用（らんよう）して批判を浴びる。
③ ヘイトスピーチは唾棄（だき）すべき行為だ。
④ 野党の代替案（だいかえあん）を受け入れる。

19
B
① 最前線の島の陥落は必定（ひつじょう）だ。
② 民間の船を誤って撃沈する事態が出来（しゅったい）する。
③ 末期（まっき）の酒を酌み交わし彼は出撃していく。
④ 無条件降伏という案に強く抗弁（こうべん）する。

20
C
① 京町家は目の細かい格子（こうし）が印象的だ。
② 手を洗い清めるために手水鉢（ちょうすばち）が置いてある。
③ 清閑な境内（けいだい）には三重塔がひっそりと建つ。
④ 葵祭の社頭の儀を桟敷（さじき）席で見物する。

21
D
① 転地療養先の温泉で吐血し人事不省（ふしょう）に陥る。
② 日本の伝統文化を礼讃（らいさん）したエッセイ。
③ 愛人とともに入水（じゅすい）自殺をはかる。
④ 幾度も文学賞の候補になるが早世（そうせい）する。

問二　次のア～エの傍線部と同じ漢字を含むものはどれですか。

22
ア　首相がインセキ辞任する。
① 重要ポストにケツインができる。
② インナイ感染が広がる。
③ 有名選手のインタイ試合を観戦する。
④ あの人とは浅からぬインネンがある。

23 イ

25%もの高い関税ソチを求める。

① 承諾の旨のゲンチを取っておく。
② チメイ的な過ちを犯す。
③ 高原のチショウを探勝する。
④ 逮捕されリュウチ場で一夜を明かす。

24 ウ

空襲に備え、学童ソカイがおこなわれる。

① 年賀状も送らなくなりすっかりソエンとなる。
② スマホが子どもの脳の発達をソガイする。
③ 源流に向かって沢をソコウする。
④ 発掘すると建物のソセキの跡が現れた。

25 エ

戦争責任をキュウダンされる。

① 取引先とのショウダンをまとめる。
② 兄弟でピアノのレンダンに挑む。
③ 時代の変化で寺院のダンカの数も減る。
④ 後継者がおらず伝統の技がダンゼツする。

【受験番号 及び 氏名の記入方法】

1．受験票に記載されている、受験番号を確認する。

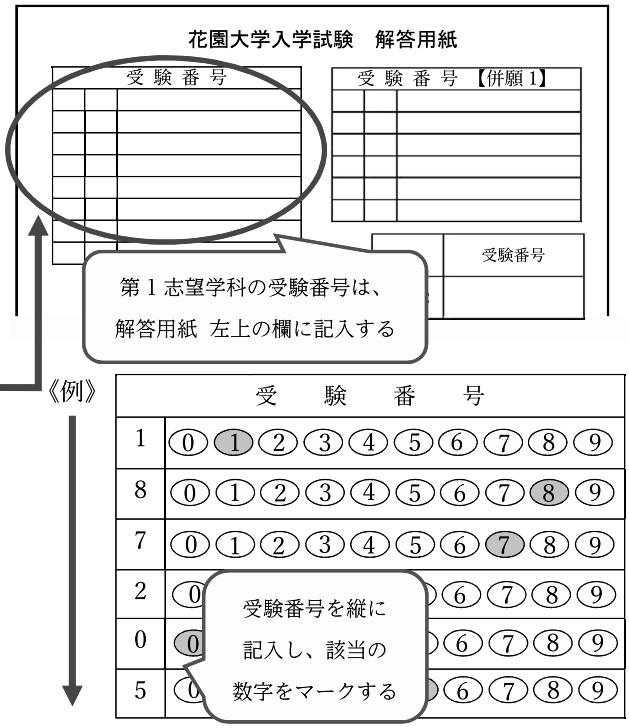
2．解答用紙 左上の受験番号欄に、先頭に◎がある受験番号の数字を縦に記入し、マーク欄にマークする。

《例》

花園大学入学試験 受験票

フリガナ		
氏　　名		
生年月日		
試 験 日		
入試制度		
学部学科 受験番号	学部学科	受験番号
		◎ 187205
		345678
		789123
試験会場		

※試験当日は、◎の付いた受験番号の座席で受験してください

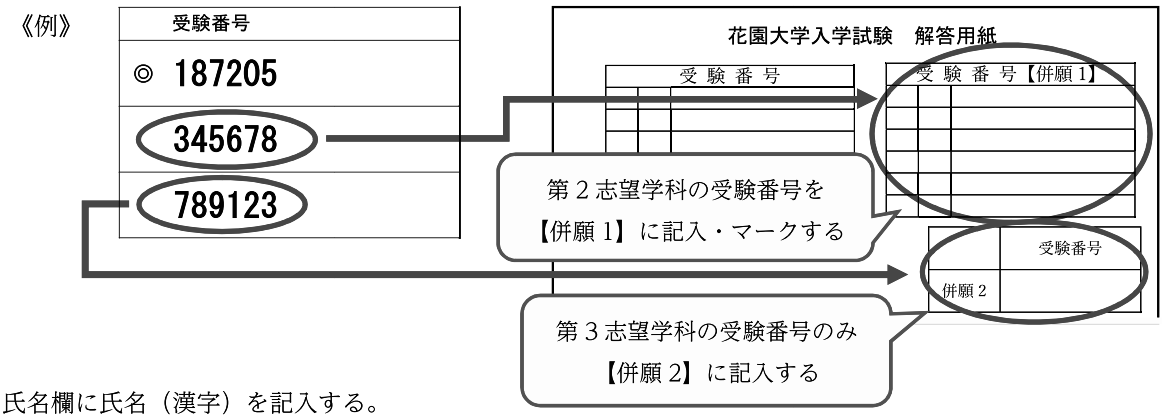


3．≪同一試験日に２学科を併願している(受験票に番号が２つ記載されている)場合≫

上記２に加え、解答用紙 右上の受験番号【併願１】の欄に、第２志望学科（◎のない）の受験番号を記入し、マークする。

4．≪同一試験日に３学科を併願している(受験票に番号が３つ記載されている)場合≫

上記３に加え、解答用紙 右上の受験番号【併願 2】の欄に、第３志望学科の受験番号の数字を記入する。



5．氏名欄に氏名（漢字）を記入する。